

生活排水の処理体系を考える

中西 弘，浮田正夫

山口大学工学部

深川勝之

宇部工業高等専門学校

概 要

生活排水の処理体系について、まず世界各地の気候、風土、歴史的経緯、生活水準等の相違から、その地域の状況に見合った方式のあることを述べ、わが国の現状においては、トイレの水洗化と生活雑排水との合併処理方式の採用が今後の基本的施策であることを再確認した。下水道や合併処理浄化槽等の種々の合併処理方式のメニューについて、処理施設規模と放流位置との関係から、地域内排出方式と地域外排出方式とに大別し、それぞれの処理要求レベルについて考察した。基本的には地域内排出方式ではより厳しい処理レベルが要求され、地域外排出方式では排出先の選定が重要である。最後に、処理規模別の処理特性を特に容積負荷と滞留時間とから比較した。小規模施設ほど容積負荷を大きくとる必要があるが、管渠施設を含めた総建設費では有利な面がある。また、小規模施設においては制度的な不平等をなくすことと、高度処理への技術開発が今後の重要な課題となる。